



2024年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2023年8月4日

上場会社名 株式会社大阪チタニウムテクノロジーズ
コード番号 5726 URL <https://www.osaka-ti.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 杉崎 康昭

問合せ先責任者 (役職名) 経営企画部長

(氏名) 所 聡

TEL 06-6413-3310

四半期報告書提出予定日 2023年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の業績(2023年4月1日～2023年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	14,130	62.4	1,691	300.5	2,469	157.7	2,073	153.6
2023年3月期第1四半期	8,702	39.4	422		958		817	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	56.34	
2023年3月期第1四半期	22.21	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	89,232	31,627	35.4
2023年3月期	81,544	30,474	37.4

(参考)自己資本 2024年3月期第1四半期 31,627百万円 2023年3月期 30,474百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		10.00		25.00	35.00
2024年3月期					
2024年3月期(予想)		20.00		20.00	40.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	26,800	36.5	3,100	53.7	3,000	3.2	2,600	18.6	70.65
通期	54,000	25.4	6,500	36.0	6,300	33.4	5,300	20.8	144.03

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 有

修正再表示 : 無

(注)詳細は[添付資料]P.7「(3)四半期財務諸表に関する注記事項(会計上の見積りの変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

2024年3月期1Q	36,800,000 株	2023年3月期	36,800,000 株
2024年3月期1Q	1,495 株	2023年3月期	1,495 株
2024年3月期1Q	36,798,505 株	2023年3月期1Q	36,798,664 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計上の見積りの変更)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	8
3. その他	8
継続企業の前提に関する重要事象等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の法律上の位置づけが「5類感染症」に移行されたことに伴う経済正常化や供給制約の改善などで緩やかな回復基調となりました。

また、海外経済においても、全体的には各国で新型コロナウイルス感染症による国境封鎖の解除や行動規制の緩和が進展するなど、経済活動は回復の兆候が見られます。

しかしながら、ロシアによるウクライナ侵攻等の地政学リスクの影響に因る資源や原材料価格の高騰といったサプライチェーンへの影響は続いており、国内においては円安影響も含めた資源や原材料価格の高騰、物価高によるインフレや人手不足の問題、海外経済でも米欧中央銀行による金融引き締めや中国経済低迷等、先行きは依然として不透明な状況が懸念されます。

当社を取り巻く事業環境について、チタン事業におきましては、航空機需要は回復から成長軌道へ転換しつつあり、加えてロシアによるウクライナ侵攻後の世界的なチタンのサプライチェーン再編が進んでいることから、スポンジチタンの需要は更に強まっております。一方で、高機能材料事業では、昨年秋からの半導体市場の落ち込みが継続しております。

こうした中、当第1四半期累計期間の売上高は、14,130百万円（前年同期比62.4%増）、営業利益は1,691百万円（前年同期比300.5%増）、経常利益は2,469百万円（前年同期比157.7%増）、四半期純利益は2,073百万円（前年同期比153.6%増）となりました。

事業別は以下の通りとなります。

チタン事業

当第1四半期累計期間におけるチタン事業の販売は航空機用途向けが主体である輸出スポンジチタンの売上高が前年同期比72.2%増、一般産業用途向け主体の国内スポンジチタン需要の増加も顕著に推移し、同83.1%増となりました。結果、チタン事業の売上高は13,407百万円（前年同期比75.9%増）となりました。

損益につきましては、販売、生産数量の増加と販売価格は正や操業改善といった収益改善や海上輸送価格の軟化、円安効果等により営業利益は1,740百万円（前年同期比542.1%増）となりました。

高機能材料事業

当第1四半期累計期間における高機能材料事業の販売は半導体関連のスパッタリングターゲット用高純度チタンの売上高が減少したこと等により、売上高は723百万円（前年同期比33.1%減）となりました。

損益につきましては、同製品の販売減影響が大きく営業損失は49百万円（前年同期は151百万円の利益）となりました。

(参考)

事業別売上高

(単位：百万円)

		当第1四半期	前年同期	増減率 (%)
チタン事業	国内	4,772	2,607	83.1
	輸出	8,634	5,013	72.2
	計	13,407	7,621	75.9
高機能材料事業		723	1,081	△33.1
合計		14,130	8,702	62.4

事業別営業利益

(単位：百万円)

		当第1四半期	前年同期	増減率 (%)
チタン事業		1,740	271	542.1
高機能材料事業		△49	151	—
合計		1,691	422	300.5

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

①資産

当第1四半期会計期間末の総資産の残高は、89,232百万円と前事業年度末と比べ7,687百万円増加いたしました。これは、現金及び預金が減少したものの、売掛金、原材料及び貯蔵品が増加したことが主な要因であります。

②負債

当第1四半期会計期間末の負債の残高は、57,604百万円と前事業年度末と比べ6,534百万円増加いたしました。これは、設備関係未払金、賞与引当金が減少したものの、短期借入金、長期借入金が増加したことが主な要因であります。

③純資産

当第1四半期会計期間末の純資産の残高は、31,627百万円と前事業年度末と比べ1,153百万円増加いたしました。これは、四半期純利益により利益剰余金が増加したことが主な要因であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年5月12日に公表いたしました、2023年3月期第2四半期累計期間及び通期の業績予想につきましては、当初の想定通りに推移しているため据え置きとさせていただきますが、セグメント別の業績の見直しにつき変更が生じたため、変更内容を報告いたします。

なお、将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。

①2024年3月期 第2四半期累計期間(2023.4.1～2023.9.30)

(単位:百万円)

セグメント		前回発表予想 (A)	今回報告 (B)	増減額 (B-A)
売上高	チタン事業	25,000	25,400	400
	高機能材料事業	1,800	1,400	△400
	合 計	26,800	26,800	—
営業利益	チタン事業	3,100	3,300	200
	高機能材料事業	0	△200	△200
	合 計	3,100	3,100	—

②2024年3月期 通期(2023.4.1～2024.3.31)

(単位:百万円)

セグメント		前回発表予想 (A)	今回報告 (B)	増減額 (B-A)
売上高	チタン事業	50,000	51,000	1,000
	高機能材料事業	4,000	3,000	△1,000
	合 計	54,000	54,000	—
営業利益	チタン事業	6,300	6,800	500
	高機能材料事業	200	△300	△500
	合 計	6,500	6,500	—

③差異が生じた理由

チタン事業では、第1四半期会計期間において為替相場が円安基調で推移したこと等により売上高及び営業利益は前回予想に対しそれぞれ増収・増益となる見通しであります。

高機能材料事業では、半導体関連需要が調整局面にある影響で高純度チタンの販売環境が悪化していること等により売上高及び営業利益は前回予想に対しそれぞれ減収・減益となる見通しであります。

なお、2024年3月期第2四半期会計期間以降の為替水準につきましては1US\$=130円を前提としております。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,971	5,851
売掛金	16,139	21,819
商品及び製品	11,001	10,204
仕掛品	3,932	3,779
原材料及び貯蔵品	7,957	11,780
その他	205	377
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	46,205	53,808
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	8,755	8,578
機械及び装置（純額）	7,795	7,762
土地	14,823	14,823
建設仮勘定	1,324	1,416
その他（純額）	358	473
有形固定資産合計	33,058	33,054
無形固定資産	937	1,050
投資その他の資産	1,344	1,317
固定資産合計	35,339	35,423
資産合計	81,544	89,232

(単位：百万円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,730	6,277
短期借入金	16,000	17,500
未払金	159	2,519
未払法人税等	714	455
未払消費税等	—	484
設備関係未払金	902	570
賞与引当金	315	80
その他	330	617
流動負債合計	23,152	28,505
固定負債		
長期借入金	24,500	25,500
資産除去債務	1,515	1,521
退職給付引当金	1,833	2,007
その他	69	69
固定負債合計	27,917	29,098
負債合計	51,070	57,604
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,739	8,739
資本剰余金	8,943	8,943
利益剰余金	12,802	13,955
自己株式	△10	△10
株主資本合計	30,474	31,627
純資産合計	30,474	31,627
負債純資産合計	81,544	89,232

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	8,702	14,130
売上原価	7,201	11,169
売上総利益	1,500	2,960
販売費及び一般管理費	1,078	1,269
営業利益	422	1,691
営業外収益		
受取利息及び配当金	6	11
為替差益	508	761
不用品売却益	73	47
受取賃貸料	9	11
その他	2	1
営業外収益合計	600	834
営業外費用		
支払利息	55	46
休止固定資産減価償却費	5	0
割増退職金	2	7
その他	1	2
営業外費用合計	64	56
経常利益	958	2,469
特別利益		
投資有価証券売却益	19	—
特別利益合計	19	—
特別損失		
固定資産除却損	11	8
特別損失合計	11	8
税引前四半期純利益	966	2,460
法人税等	148	387
四半期純利益	817	2,073

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用)

年間の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。また、繰延税金資産の回収可能性の判断に関しましては、前事業年度に対し一時差異、経営環境等に著しい変化がある場合においてはその影響を加味しております。

(会計上の見積りの変更)

(退職給付に係る会計処理の数理計算上の差異の費用処理年数の変更)

退職給付に係る会計処理の数理計算上の差異の費用処理年数について、従来、従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数として13年で費用処理をしておりましたが、平均残存勤務期間がこれを下回ったため、当第1四半期会計期間より費用処理年数を11年に変更しております。

この変更が、当第1四半期累計期間の営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

(ウクライナ情勢の影響に関する会計上の見積りについて)

前事業年度末に行った、ウクライナ情勢の影響に関する会計上の見積りに重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	チタン事業	高機能材料事業	
売上高			
外部顧客への売上高	7,621	1,081	8,702
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	7,621	1,081	8,702
セグメント利益	271	151	422

(注) セグメント利益の合計額と四半期損益計算書上の営業利益とに差異は生じておりません。

当第1四半期累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	チタン事業	高機能材料事業	
売上高			
外部顧客への売上高	13,407	723	14,130
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	13,407	723	14,130
セグメント利益又は損失(△)	1,740	△49	1,691

(注) セグメント利益又は損失の合計額と四半期損益計算書上の営業利益とに差異は生じておりません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。